

「川の日」記念行事

(since1998, 通算 27 回)

第17回 “いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in ひょうご神戸

～ 水のめぐみとともに生きる地域の力を、震災 30 年の地から発信する～

全国の “いい川”・“いい川づくり” 募集!!

川は、命を育み、地域の文化や暮らしを支えてきた、わたしたちにとってかけがえのない存在です。“いい川”・“いい川”づくりワークショップは、わたしたちが思い描く“いい川・いい水辺”とは何かを、地域で実践を重ねてきた市民・住民・行政がともに語り合い、学び合う場として、1998 年に「川の日」ワークショップとして始めました。

第 27 回となる本大会を開催する兵庫・神戸は、阪神・淡路大震災から 30 年という大きな節目の年を迎えます。都市と自然がせめぎ合いながら共存するこの地は、震災を経て、水辺の再生、防災、環境教育、コミュニティの再構築など、多様な取り組みを積み重ねてきました。震災の経験とそこから得られた教訓は、今もなお川や流域との向き合い方に深い示唆を与え続けています。

また、兵庫県全域には、六甲山を源に瀬戸内海へと注ぐ都市河川から、丹波・但馬・播磨・淡路に広がる多様な自然環境や農山漁村の水系まで、地域ごとの個性と歴史をたたえた川や水辺が息づいています。瀬戸内海と日本海の両方に面する兵庫での開催は、都市・中山間・沿岸といった多様な地域が、それぞれの“いい川づくり”をつなぎ直す機会でもあります。

今回のワークショップでは、全国から寄せられた“これぞいい川・いい川づくり”という実践や思いをもとに、選考会や意見交換、フィールドワーク等を通じて、地域や世代を越えた交流の場を創出します。川と人との関係性を問い直しながら、これからの水辺のあり方をともに描いていく 2 日間です。

震災から 30 年という節目の地で、流域の未来を見据えた“いい川づくり”の対話と連帯を、ともに紡いでいきましょう。皆さんの参加を、心よりお待ちしております。

●日時：2025 年 10 月 25 日（土）10：30～18：00

26 日（日） 9：00～15：30 ※時間は予定です

* 10 月 24 日（金）午後 現地の川や活動の現場の見学会を予定（希望者、事前申込制）

●会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO（キイト）

（兵庫県神戸市中央区小野浜町 1-4）

* アクセス：JR 神戸線「三ノ宮駅」から徒歩約 15 分 <https://kiito.jp/access/>

・主催：いい川・いい川づくり実行委員会 実行委員長 宮口 侗逸 他約 100 名

・後援（予定）：国土交通省、神戸市、明石市、兵庫県、兵庫県立人と自然の博物館、
神戸市立工業高等専門学校、ESD 推進ネットひょうご神戸

“いい川”・“いい川づくり”ワークショップとは？

- 2 日間にわたり行なわれる選考会のプログラムは、全体会場での全応募者による発表に始まり、共通するテーマごとのグループに分かれて行われるテーブル選考、復活選考、全体選考と、全てオープンに行われます。
- 選考は優劣を決めるものではありません。発表によるリアルな取り組みの中から、選考過程を通じた議論の深まり、新しい視点やそれぞれのタカラモノの発見、共有をめざします。
- 各選考は実行委員会からそれぞれ選出された選考員（市民、行政、学識者など）が行います。選考の考え方、評価のポイントは次のように考えています。
 - ◆ それぞれの川の「タカラモノ」に光を当て、“いい川”、“いい川づくり”とは何かを探ります。
 - ◆ 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
 - ◆ 公開選考会は、おおよそ以下の 4 つのカテゴリーにおいて総合評価します。
 - 発想・着眼評価： “いい川”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
 - 関わり評価： 地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価
 - プロセス評価： “いい川”を育むための市民・住民参加や、様々な分野の人達との協働のプロセスについての評価
 - 計画・技術評価： 川らしさの保全や“いい川”回復のために工夫された計画手法、技術等についての評価や“いい川”を実現した計画、技術などに対する評価 など
- 応募者は、規定のプレゼンテーション用パネルを用意し、自由な表現方法で発表、アピールします。1 件 3 分という限られた時間の中で、工夫を凝らし熱のこもった発表が毎回繰り広げられています。日頃の取り組みを発表すること、そして議論や交流を通じて、新たな発見、取り組みのエネルギーをつかみます。
- 2 日間を通じた合意の深まり、学びあいの成果としてグランプリや入賞を選び、讃えあいます。

第17回「いい川」・「いい川づくり」ワークショップひょうご神戸

【大会概要】 ※プログラムの一部、時間等は予定です。詳細は追ってホームページ等でご案内します。

☆ 10月24日(金)午後 エクスカーション (希望者、事前申込制)

* 現地実行委員会の企画運営による現地見学会。尼崎運河、明石川、湊川隧道の水辺を訪ねます。詳細は追ってご案内します。

※ワークショップ参加者から希望者を募集します。詳しくは、別途チラシ、大会ホームページをご覧ください。

10月25日(土) 10:30開会 ~18:00

・会場(両日):テザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO KIITO ホール他

☆実行委員会 (10:00~10:20)

開会・全体集会

(応募者・一般受付 10:20~)

- ・10:30 開会 (全体会場)
- ・ワークショップの考え方や進め方等を共有します。

全体発表会
(全応募団体の発表)

- ・全体会場での全応募団体による発表会。
- ・大まかなテーマであらかじめ分けられたグループの順に従い、1件につき3分間で、続けて発表のみを行います。

グループ別
テーブル選考

- ・全体発表会での発表の後、テーマが共通するグループに分かれ、それぞれの会場(テーブル)でテーブルコーディネーターの進行のもと、選考員、発表者、一般参加者を交えてテーブル全体で議論します。
- ・議論により各テーブルから1~2件を翌日の全体選考に推薦します。

全体集会

- ・テーブル選考の討論概要、結果報告(各テーブル・コーディネーター)ほか
 - ・特別セッション 現地発「(仮題)阪神・淡路大震災から30年のまちと水辺を語り合う」
- (1日目終了)

*1日目終了後、WEEKEND(東遊園地内)で交流懇親会を予定しています。後日、別途ご案内いたします。
(事前申込み・会費制)

10月26日(日) 9:00~15:30開会 全体会場:同 KIITO ホール

復活選考

(2日目開会)

- ・前日のテーブル選考で選外になった団体から、新たな視点から復活させる目的で、ポスターセッション形式による追加推薦を投票で行ないます。復活推薦された団体は、全体選考(二次選考)の対象に加わります。

全体選考
(発表・二次選考)

- ・テーブル選考と復活選考で推薦された団体(入選)による発表(各3分)
- ・発表を受け、コーディネーターの進行のもと、コメンテーター、会場からの応援、意見も交えて選考を行います。最終選考への絞り込みを通じて、「いい川」、「いい川づくり」の評価の視点、ものさしを明らかにしていきます。

公開討論会
(最終選考)

- ・全体選考の結果、議論を受け、コーディネーターの進行のもと、コメンテーター、会場を交えた最終選考を通じて議論を深めます。全体をふりかえり、「いい川」のイメージや「いい川づくり」の新たな視点を共有します。

表彰・閉会式

- ・グランプリ、準グランプリ、特別賞などの表彰と講評
- ・オリジナルの表彰状や副賞を贈呈し、ワークショップの成果を讃えあいます。



「川の日」記念行事「第17回「いい川」・「いい川づくり」ワークショップ in ひょうご神戸」は、「川の日」実行委員会の助成を受けています。

目を覚ませ!人口減少時代だ、大変だけど 全員でワクワクしながら「いい流域を創ろうぜ」プロジェクト 始動!



学生・若者よ!森へ行こう!プロジェクト

矢作川流域圏懇談会
with 伊勢湾・遠州灘 流域圏創造チーム

俺（はぎぼう）が繋げるぜ!



地域の未来・志援センター
未来創造プログラム

諏訪湖・湖浄連 with
全国川ごみネットワーク



鈴鹿川・魚と子どものネットワーク



愛知・川の会 &
中部流域連携ネットワーク



22世紀奈佐の浜プロジェクト



30年以上 いい川づくりを頑張ってきたけれど……



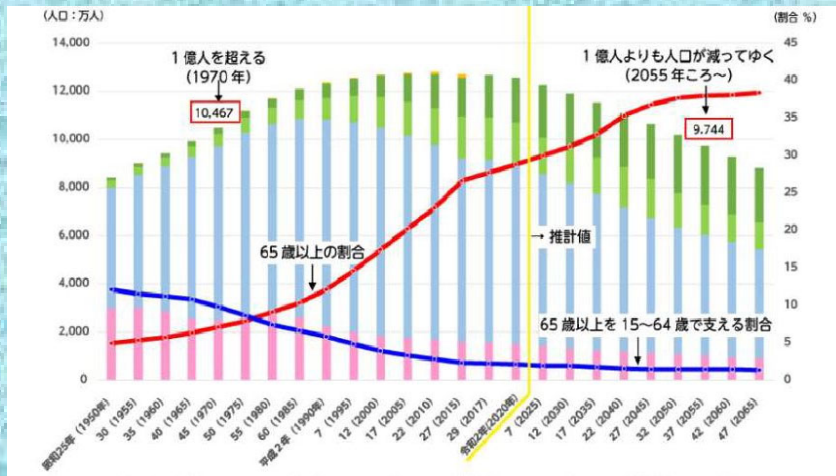
矢作川 古嵐水辺公園とお釣土場



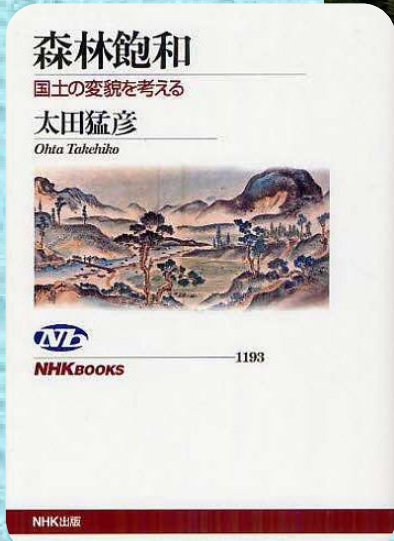
矢作川水系 籠川多自然川づくり



伊勢湾流域は今・・・



日本の人口減少は14年連続、今後も減少へ
東京圏への一極集中が続く
多くの分野で担い手不足が顕著に



色落ちした海苔(右)



餌不足で痩せたアサリ(右)



伊勢湾の出口である答志島 奈佐の浜海岸

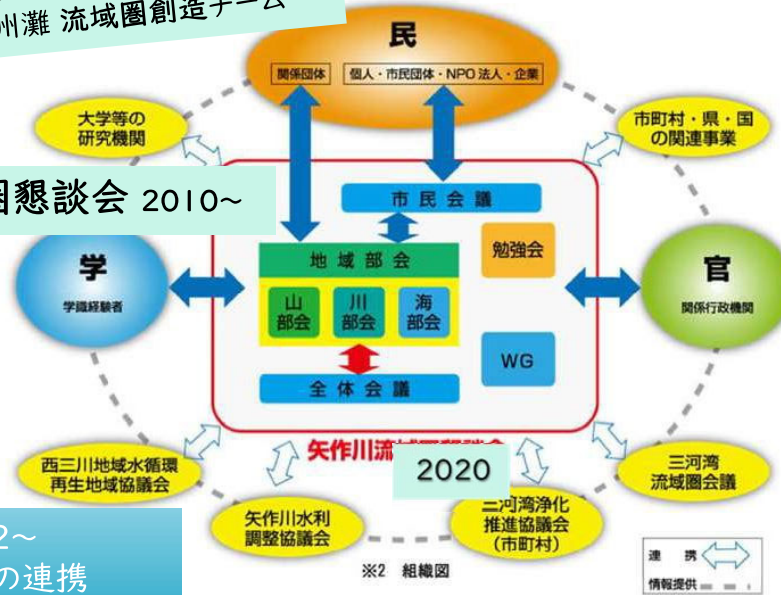
目を覚ませ!人口減少時代だ、大変だけど 全員でワクワクしながら「いい流域を創ろうぜ」プロジェクト 始動!



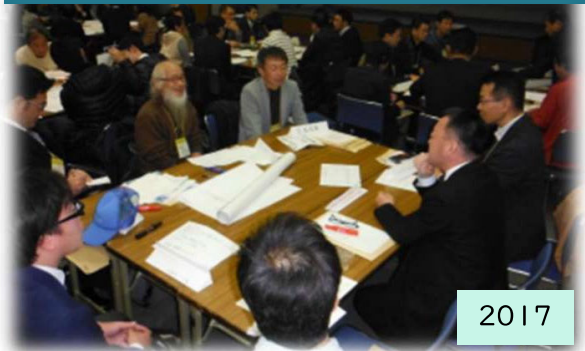
矢作川流域圏懇談会
with 伊勢湾・遠州灘 流域圏創造チーム

2022~ 学生・若者よ!森へ海へ行こう!プロジェクト

矢作川流域圏懇談会 2010~



22世紀奈佐の浜プロジェクト 2012~
●2014~ 矢作川流域圏懇談会との連携
●2017 海ごみ減らそうフォーラムでも交わる
/JEAN、全国川ごみネットワーク



2018、2019 いい川WS 北海道、滋賀大会へ
流域圏創造チームが2020中部大会の誘致



2018~ 奈佐の浜プロジェクト学生部会スタート
地域の未来・志援センター 未来創造プログラムと協働



目を覚ませ!人口減少時代だ、大変だけど 全員でワクワクしながら「いい流域を創ろうぜ」プロジェクトに必要なこと



矢作川流域圏懇談会

with 伊勢湾・遠州灘 流域圏創造チーム

私たちには「場」が必要です

- ・誰でも参加できること
- ・流域課題を共有できること
- ・多様なメンバーとNWの存在
- ・メンバー自身が行動すること

懇談会【ツールI】担い手づくり事例集

- V 「伊勢湾の豊かさとは?」2024
 - VI 「流域総合水管理」2025
- をテーマに取材と発信

海から見れば
流域全部が繋がる

流域圏
担い手づくり事例集 V

伊勢湾・三河湾の
豊かさを考える



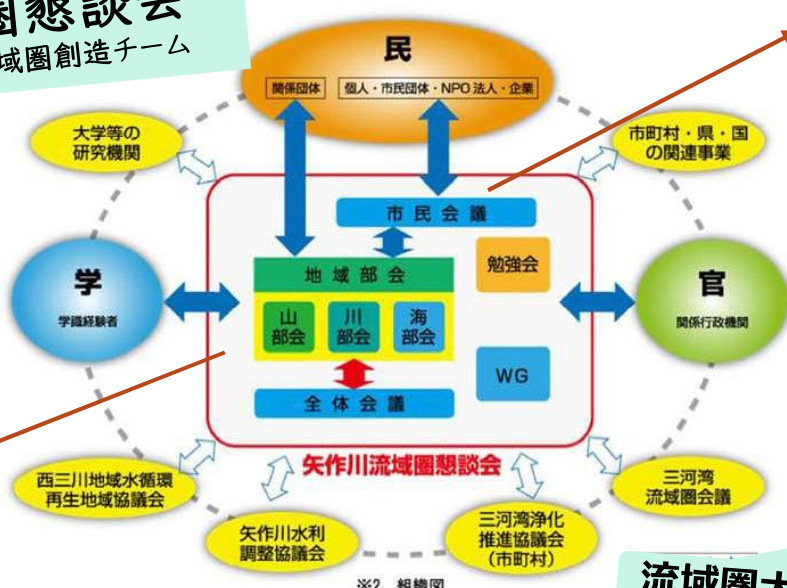
矢作川流域圏懇談会
2024年3月

流域圏
担い手づくり事例集
VI-I

流域の視点から見た
治水・環境と
総合水管理



矢作川流域圏懇談会
2025年3月



懇談会【ツールII】公開講座

第6回「流域総合水管理」
をテーマに発信(2024)



流域圏大学 が今、必要なのではないか



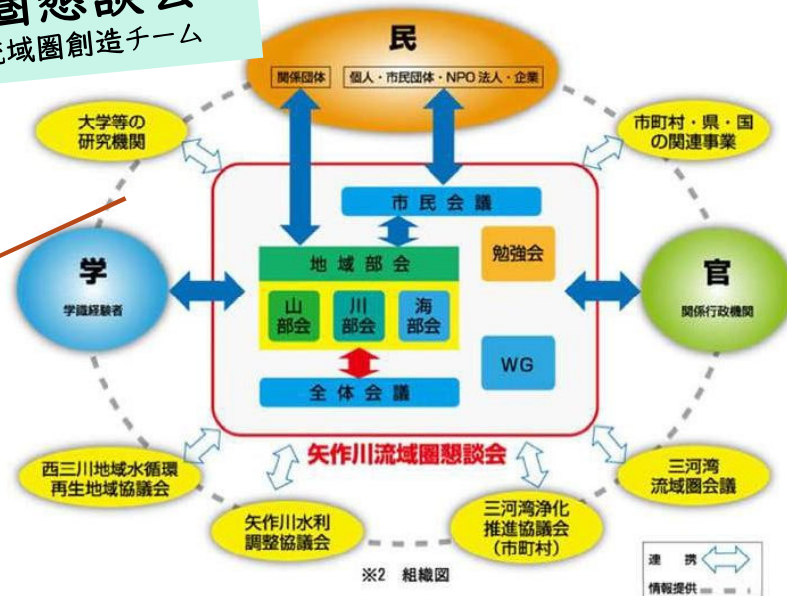
「流域総合水管理」は国民全員(みんな)でやらなければ!

目を覚ませ!人口減少時代だ、大変だけど 全員でワクワクしながら「いい流域を創ろうぜ」プロジェクト 広げるぜ!



矢作川流域圏懇談会 with 伊勢湾・遠州灘 流域圏創造チーム

「流域総合水管理のあり方」
答申(2025.6月)において
「矢作川流域圏懇談会」
が事例として紹介されている



第3回「中部のいい川」
ワークショップ(2025)でも!

中部のいい川ワークショップ
第3回
伊勢湾から見た
私たちの流域とつながり
2025.2.1(土)
9:30 - 17:00
三重県四日市市福祉会館 ホール
〒510-0104 四日市市柳町南五棟棟60

プログラム<予定>
4つのセッションによる活動発表
①流域・水辺とまらのり口 (4~5団体発表予定)
②流域をつなぐ (3~4団体発表予定)
③世代をつなぐ (3~4団体発表予定)
④海 (伊勢湾・遠州灘) から流域をつなぐ (3~4団体発表予定)

話題提供
①森 誠一氏 (岐阜国立大学 教授) 『関川の時・空間論: ざわめく自然を求めて』
②松沢 孝善氏 (長海トンネル研究会 会長) 『伊勢湾から流域圏の山へ海の環境を考える (仮)』

中野洋昌国交大臣への要望書提出
「流域総合水管理」に向けた市民連携
の強化(2025.5月) / 全国水環境交流会

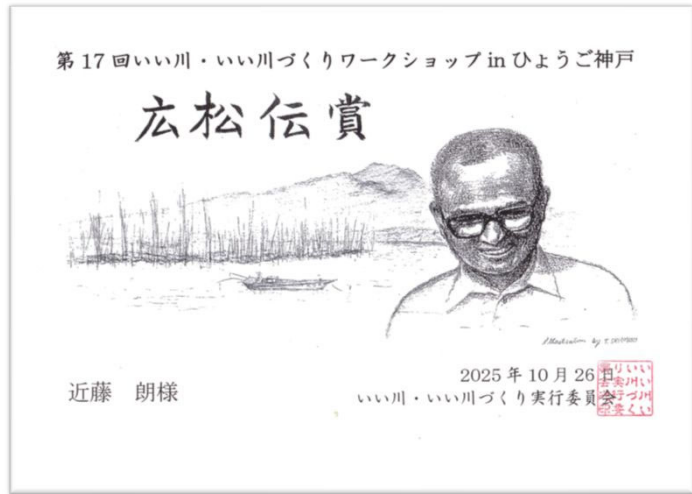


多摩川流域懇談会との交流 2023~





発表の様子



近藤さんが受賞した広松伝賞



洲崎さん、小池さん、広松伝賞を推薦して下さった山口さん



受賞式の様子



会場の様子

【広松伝賞の審査基準】

- ・市民・住民の視点や立場で川や水辺の保全、回復に貢献するなど、市民のために働いた人
- ・笑顔の素晴らしい人
- ・多くの人が認める"いい男"、"いい女"、"いいグループ"

【広松 伝 1937～2002】

福岡県柳川市の職員として柳川の掘割が荒廃していくなか、埋め立て計画に反対し、地域住民とともにドブ浚いから始め、掘割の再生を果たした。この活動は、「柳川掘割物語」（監督：高畑勲 1987年公開）として映画化され、全国の川再生活動に大きな影響を与えた。

「柳川水の会」会長、全国水環境交流会 理事他。著書に、「柳川掘割から水を考える」（藤原書店、1990）、「よみがえれ！"宝の海"有明海」（藤原書店、2001）

※いい川・いい川づくりワークショップ資料より抜粋